

INFORMATION

利用のご案内

開館時間 = 午前9時30分～午後5時、ただし5月5日、9月11日、11月3日、2月23日を除く金曜日は午後8時まで(いずれも入場は閉館の30分前まで)

休館日 = 月曜日(祝休日の場合は開館し、翌平日休館。ただし、8月14日[月]は開館)
展示替期間: 4月1日～4月14日、6月5日～6月23日、9月4日～9月22日、11月20日～12月18日、3月11日～3月31日
年末年始: 12月29日～1月3日

Museum Hours

9:30 a.m.-5:00 p.m., -8:00 p.m. on Friday except holiday
(entrance until 30 minutes before closing)
Closed on Mondays(if Monday is a holiday, the following weekday, except Aug. 14),
Apr. 1-14, Jun. 5-23, Sep. 4-22, Nov. 20-Dec. 18, Dec. 29-Jan. 3, Mar. 11-31

観覧料 / Admission

常設展 Permanent Exhibition	個人 Admission	団体 Group Admission (more than 30 people)	定期観覧券(1年分) Annual Passes (for one year)
一般 Adults	300円	250円	1200円
高大生 University and senior high schools with ID	200円	150円	800円
名古屋市内在住の65才以上の方 Citizens in Nagoya 65 and over with ID	100円	80円	400円
中学生以下 Junior high school students and under	無料 Free		
芸術と科学の杜 共通観覧券(市美術館 常設展と市科学館 展示室の共通観覧券) Center for Arts and Science, Combination Ticket(entrty for Art Museum's permanent collection and Science Museum's exhibitions)			
一般 Adults	500円		

※障害のある方、難病患者の方は手帳または受給者証(マイリD可)の提示により本人と付添者2名まで無料で常設展をご覧いただけます。

Disabled person can see permanent exhibition for free with up to two helpers or attendants by showing disability certificate.

※特別展はその都度定めます。

Temporary Exhibition fee will be determined for each Exhibition.

※共通観覧券で特別展やプラネタリウムを観覧することはできません。

Combination Ticket does not include fee for Temporary Exhibitions and Planetarium.

交通案内

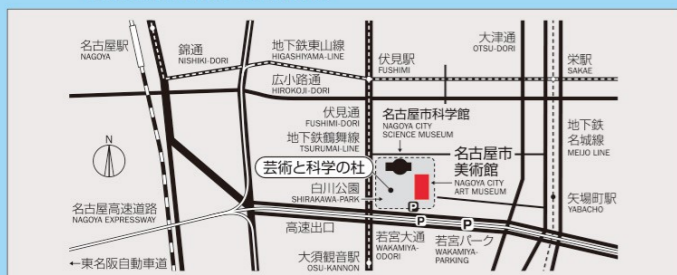
地下鉄東山線・鶴舞線「伏見」下車、5番出口から南へ徒歩8分

地下鉄鶴舞線「大須観音」下車、2番出口から北へ徒歩7分

地下鉄名城線「矢場町」下車、4番出口から西へ徒歩10分

Transportation

Subway: Get off at "Fushimi" on the Higashiyama Line and the Tsurumai Line, go through #5 exit and walk south for 8 minutes.
Get off at "Osukannon" on the Tsurumai Line, go through #2 exit and walk north for 7 minutes.
Get off at "Yabacho" on the Meijo Line, go through #4 exit and walk west for 10 minutes.



名古屋市美術館 〒460-0008
名古屋市中区栄二丁目17番25号[芸術と科学の杜・白川公園内]
17-25, Sakae 2-chome, Naka-ku, Nagoya, 460-0008, Japan
Tel.052-212-0001 Fax.052-212-0005
https://art-museum.city.nagoya.jp/



古紙パルプを含む再生紙を使用しています。

常設展(常設展示室1・2)

Permanent Exhibition

常設展「名品コレクション展」では、1年度を3期に分けて展示替えを行い、約8,500点の所蔵作品の中から時期ごとのテーマにあわせた作品を展示しています。

〈コレクション〉

エコール・ド・パリ

パリに生き、パリを描き続けた郷土出身の画家荻須高德との関連から、エコール・ド・パリとよばれる1910年頃から1930年頃にかけて芸術の都パリに集まってきた外国人作家たちと、その周辺のフランス人作家の作品を収集しています。

【主な作家】

モディリアーニ、シャガール、ユトリロ、ローランサン、藤田嗣治、岡鹿之助など



アメデオ・モディリアーニ
《おきげ髪の少女》1918年頃

メキシコ・ルネサンス

メキシコで活躍した郷土出身の画家北川民次との関連から、メキシコ・ルネサンスとよばれる革命に揺れる20世紀前半のメキシコの近代美術を収集しています。

【主な作家】

オロスコ、リベラ、シケイロス、タマヨ、カーロ、イスキエルド、ティナ・モットティ、ベン・シャーン、北川民次など



フリーダ・カーロ
《死の仮面を被った少女》1938年

郷土の美術

名古屋を中心とした地域は、東京と京阪神の間にあつて、両者の影響を受けながらも独自の美術・文化を形成し発展してきています。この地方にゆかりのある作家を中心として、すぐれた作品を収集しています。

【主な作家】

前田青邨、三岸節子、中村正義、川合玉堂、熊谷守一、鬼頭鎮三郎、山本鼎など



川合玉堂
《秋嶺白雲》1940年頃

現代の美術

第二次世界大戦後から現代にいたる美術作品のうち、この地方にゆかりのある荒川修作、河原温、桑山忠明の三人と、関連の作家の作品を収集しています。また、名古屋市美術館がオープンした1980年代を中心に、国内外の作家の作品を収集しています。美術館のある白川公園内には、イサム・ノグチやアントニー・ゴームリーなどによる現代彫刻がおかれています。

【主な作家】

宮島達男、森村泰昌、草間彌生、ナムジュン・バイク、キーファー、ステラ、アバカノヴィッチなど



アレクサンダー・コールドー
(ファブニール・ドラゴンII) 1969年
(美術館エントランス前)

ボランティアによる常設展ギャラリートーク(開館日は毎日実施)

午後1時30分から／午後2時30分から 参加費無料(観覧料のみ)、申込不要
※都合により時間の変更や中止をすることがあります。

教育普及事業

Education

コレクション解析学2023

Lecture of the Collection 2023

名古屋市美術館のコレクションから1点を選び、その魅力を学芸員が紹介する講座です。各回午後2時より、2階講堂にて開催します。定員120名(申込不要、入場無料、約90分)

第1回 8月26日[土]

Aug. 26 [Sat.]

演題: 「“舞妓を描く”ということ」

作品: 鬼頭鎮三郎《舞妓六選》1976年

講師: 久保田舞美

鬼頭鎮三郎の晩年の代表的主題「舞妓」について、作家が舞妓を描くに至った背景や表現の魅力に迫ります。



左: 鬼頭鎮三郎《舞妓六選》 3紙(團扇の頃(豆菊、小薫)) 1976年
右: 鬼頭鎮三郎《舞妓六選》 5宵宵(豊千代) 1976年

第2回 11月11日[土]

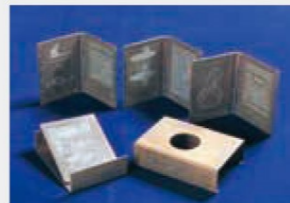
Nov. 11 [Sat.]

演題: 「読書に適さない本」

作品: 中村宏《イカルス》1973年

講師: 清家三智

ルポルターージュ絵画で知られる画家・中村宏(1932-)が手掛けたブック・アートとその制作背景を探ります。



中村宏《イカルス》1973年

第3回 2月24日[土]

Feb. 24 [Sat.]

演題: 「集団撮影行動とは何か- 学生写真運動資料解題」

作品(資料): 全日本学生写真連盟関連資料(1966-1972)

講師: 竹葉丈

1960年代後半、「政治の季節」に展開した学生写真運動の表現とその内容について紹介・検証します。



写真集「この地上にわれわれの国はない」(1970年)表紙

※講演会等への参加にあたり、障害等により特別な配慮が必要な方は、事前申込みの事業は申込み時に、当日参加の事業は2週間前までに美術館にご相談ください。

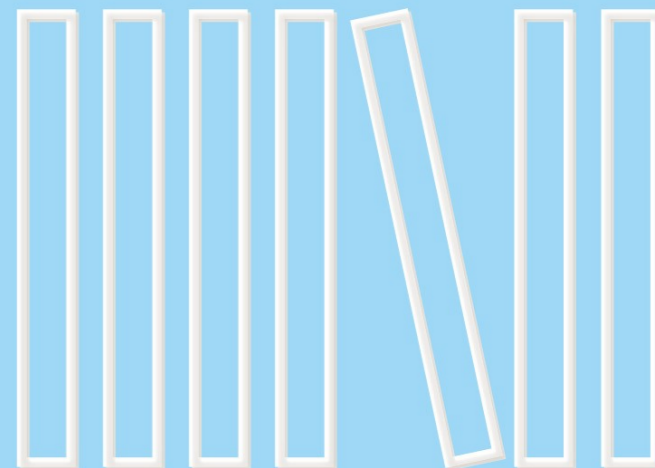
音声ガイド

多言語ミュージアムガイドアプリ
「マルチリンガルミュージアムガイド」

スマートフォンやタブレット端末でコレクションの解説を視聴できる、無料の音声ガイドアプリです。当館の代表的な86作品の解説(日本語と英語)にわえ、屋外彫刻作品や建築の見どころなども紹介しています。一度ダウンロードすれば全てのコンテンツをいつでもどこでも視聴いただけるので、ぜひご利用ください。

※展示室内でご利用の際は、他のお客様のご迷惑にならないようイヤホン等をご用意ください。

アプリのダウンロードはこちらから↓
https://www.brotherearth.com/e/museum-guide/



Nagoya City Art Museum

INFORMATION 2023.4-2024.3

年間案内

特別展
Temporary Exhibition

常設展
Permanent Exhibition

特集
Special Exhibition
from the Collection

教育普及事業
Education

名古屋市美術館

特別展(企画展示室1・2)

Temporary Exhibition

コレクションの20世紀

The 20th Century through the Collection of Nagoya City Art Museum

4月15日[土]ー6月4日[日]

Apr. 15 [Sat.] - Jun. 4 [Sun.]

名古屋市美術館は開館準備の段階から「エコール・ド・パリ」「メキシコルネサンス」「現代の美術」「郷土の美術」という4つの収集方針に基づいてコレクション(収蔵品)を形成してきました。美術作品には時代を超えて伝わる良さとともに、制作された時代の社会や作家の状況を色濃く映し出す一面もあります。開館35周年を迎え、8,000点余に成長したコレクションから収集方針の垣根を越えて約100点を年代順で紹介し、日本および世界の20世紀をふり返ります。歴史の流れの中に名古屋市美術館のコレクションを置いてみた時、いつもの作品がいつもとは違った表情で私たちの前に立ち現われ、過ぎ去りし20世紀への思いを新たにさせてくれることでしょう。



エドワード・ルッシュ(20世紀)1988年 名古屋市美術館蔵 ©Ed Ruscha

マリー・ローランサンとモード

Marie Laurencin et la mode

6月24日[土]ー9月3日[日]

Jul. 24 [Sat.] - Sep. 3 [Sun.]

二つの世界大戦に挟まれた1920年代のパリ。それは様々な才能がジャンルを超えて交錯し、類まれな果実を生み出した、奇跡のような空間でした。ともに1883年に生まれたマリー・ローランサンとガブリエル(ココ)・シャネルの二人は、その自由な時代を生きる女性たちの代表ともいえる存在です。本展では二人の活躍を軸に、ポール・ボワレ、ジャン・コクトー、マン・レイ、ジャンヌ・ランバンなど時代を彩った人々との関係にも触れながら、美術とファッションが互いの境界を越えてダイナミックに展開していく様子を辿ります。



マリー・ローランサン(ニコル・グルーと二人の娘、ブワットとマリオン) 1922年 油彩・キャンバス マリー・ローランサン美術館蔵 ©Musée Marie Laurencin

福田美蘭ー美術って、なに?

FUKUDA MIRAN-What is Art?

9月23日[土・祝]ー11月19日[日]

Sep. 23 [Sat. / public holiday] - Nov. 19 [Sun.]

中部地方では初となる現代美術家・福田美蘭の個展です。福田美蘭は、東京藝術大学大学院を修了後、具象絵画の登竜門とされる安井賞を最年少で受賞し、国内外で活躍を続けています。同時代の社会が抱える問題や、古今東西の名画を題材に、固定観念を覆すような鋭い視点で、ときにユーモアを添えて表現します。本展では、1980年代から近年までの作品を紹介するとともに、名古屋市美術館の所蔵作品から着想した新作も展示予定。深い洞察力をもって絵画の可能性を追求し、美術ってなんだろう?と問いかける数々の作品は、私たちの思考を刺激し、混沌とした現代を生き抜く知恵とエネルギーを与えてくれます。福田美蘭の世界を、どうぞお楽しみください。



福田美蘭(ブッシュ大統領に話しかけるキリスト)2002年 パネルにアクリル絵具 新潟県立近代美術館・万代島美術館蔵

ガウディとサグラダ・ファミリア展

Gaudi and the Sagrada Familia

12月19日[火]ー3月10日[日]

Dec. 19 [Tue.] - Mar. 10 [Sun.]

スペインが生んだ建築家の奇才アントニ・ガウディ(1852ー1926)。代表作の一つ、サグラダ・ファミリアは、長らく「未完の聖堂」と言われてきましたが、いよいよ完成の時期が見えてきました。本展では、サグラダ・ファミリアを中心に、ガウディの建築思想や独自の制作過程を紹介します。さらに多彩色のタイル被覆や家具、鉄細工装飾、彫刻も合わせた総合芸術志向にも注目します。最新の技術で撮影された建築映像を含め、図面・模型・写真など100点を超える資料から、今も人々を魅了し、さまざまな芸術分野に影響を与え続けるガウディ建築の魅力に迫ります。



サグラダ・ファミリア内観 ©Fundación Junta Constructora del Temple Expiatori de la Sagrada Família

常設展示室3

特集 Special Exhibition from the Collection
開館35周年事業 猛獣画廊壁画修復プロジェクト
Restoration Project on Mural Paintings for Higashiyama Zoo

4月15日[土]ー6月4日[日]

Apr. 15 [Sat.] - Jun. 4 [Sun.]

6月24日[土]ー9月3日[日]

Jul. 24 [Sat.] - Sep. 3 [Sun.]

9月23日[土・祝]ー11月19日[日]

Sep. 23 [Sat. / public holiday] - Nov. 19 [Sun.]

12月19日[火]ー3月10日[日] 修復完了報告展(会期は予定)

Dec. 19 [Tue.] - Mar. 10 [Sun.]

第2次世界大戦中に動物を失った東山動物園では、1948年に「猛獣画廊壁画」3枚が制作され、動物に代わり多くの人を迎えました。描いたのは、太田三郎、水谷清、宮本三郎。ライオンやヒョウといった動物が見られず、寂しい思いをしている子どもたちのために、横幅5メートルの大画面に「北極・南極」「南方熱帯」「アフリカ」に暮らす動物の姿を描きました。



水谷清(東山動物園猛獣画廊壁画No.2)1948年 名古屋市美術館蔵

壁画は1997年に当館に収蔵されましたが、当初から修復が必要な状態でした。昨年度、皆様のご支援により、これら貴重な文化財である壁画の修復プロジェクトを開始し、修復に向けての調査の様子を公開しました。今年度は、展示室で修復作業を行い、その様子をご覧いただけます。修復完了後は、壁画3枚を一室に展示します。

修復は、愛知県立芸術大学に依頼し、修復の専門家、また近隣地域で文化財の修復や保護等について学ぶ学生、研究者によるチームによって行われています。展示会期間中には、スタッフによる子ども向けのイベントや修復完了説明会を予定しています。

修復作業日程やイベントの詳細は、美術館公式ウェブサイトでご案内します。



太田三郎(東山動物園猛獣画廊壁画No.1)修復の様子 (2022年12月ー2023年2月実施)

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
企画展示室 1・2	4/15 特別展 コレクションの20世紀	6/4	6/24 特別展 マリー・ローランサンとモード	9/3	9/23 特別展 福田美蘭ー美術って、なに?	11/19	12/19 特別展 ガウディとサグラダ・ファミリア展	3/10				
常設展示室1	4/15 常設展 名品コレクション展Ⅰ ●エコール・ド・パリ:物語と挿絵ーシャガール(寓話)より ●メキシコルネサンス:ホセ・ガダルペ・ボサダー生の教訓、死の隠喩 ●現代の美術:現代の空間表現	6/4	6/24 常設展 名品コレクション展Ⅱ(前期) ●エコール・ド・パリ:道が示すもの ●メキシコルネサンス:生と死 プラボアの写真から ●現代の美術:金属の様相	9/3	9/23 (後期)	11/19	12/19 常設展 名品コレクション展Ⅲ ●エコール・ド・パリ:海老原喜之助とパリ ●メキシコルネサンス:シケイロス没後50年 ●現代の美術:Woman-(私)の物語	3/10				
常設展示室2	4/15 ●郷土の美術:星野眞吾生誕100年	6/4	6/24 ●郷土の美術:サンサシオン100年 若き情熱とはばしる名古屋 1923-33	9/3	9/23 (後期)	11/19	12/19 ●郷土の美術:抵抗と模索ー学生写真運動の展開	3/10				
常設展示室3	4/15 特集 開館35周年事業 猛獣画廊壁画修復プロジェクト	6/4	6/24 特集 開館35周年事業 猛獣画廊壁画修復プロジェクト	9/3	9/23 特集 開館35周年事業 猛獣画廊壁画修復プロジェクト	11/19	12/19 特集 開館35周年事業 猛獣画廊壁画修復プロジェクト 修復完了報告展(会期は予定)	3/10				
講 堂				●8/26 教育普及事業 コレクション解析学 鬼頭綱三郎(舞妓六選)		●11/11 教育普及事業 コレクション解析学 中村宏(イカルス)		●2/24 教育普及事業 コレクション解析学 全日本学生写真連盟資料				

※特別展、常設展、特集、教育普及事業の会期、名称及び内容は、都合により変更されることがありますので、ご了承ください。